

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	19H05594	研究期間	令和元(2019)年度 ～令和5(2023)年度
研究課題名	脳・認知・身体と言語コミュニケーションの発達：定型・非定型発達乳幼児コホート研究	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	皆川 泰代 (慶應義塾大学・文学部・教授)

【令和3(2021)年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(研究の概要)		
<p>本研究は、第一に、発達初期の脳機能結合を含めた脳機能発達、そして様々な知覚・認知・身体運動機能の発達特性が言語・コミュニケーション能力の獲得にどのように関与しているか、第二に発達障害を予測する生理学的、行動学的因子は何かを明らかにすることを目的としている。</p> <p>具体的には、自閉スペクトラム症（ASD）のリスクを持つ非定型発達と定型発達の新生児から3・4歳までの幼児を対象に、脳機能、知覚・認知機能、運動機能を縦断的に計測するコホート研究を行う。</p>		
(意見等)		
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、縦断研究コホートの0～12か月児新規研究のリクルートや発達に問題を持ったコホート参加幼児の介入実験を対面で行うことができない、実験に使用する機器の納品が大幅に遅れるなど、研究の遅れを余儀なくされているものの、医学部小児科の共同研究者とともに新型コロナウイルス感染症への対策を講じ、所属機関での実験にかかる倫理許可と実施許可の再取得を経て、速やかに実験を再開したことは評価できる。</p> <p>また、実験の再開に当たっては、対面実験をオンラインシステムでの発達検査及び行動実験並びに郵送での質問紙調査に変更するなどして、可能な範囲での対策を講じることで、縦断実験が継続され、研究成果を上げている点は高く評価できる。</p> <p>また、研究計画の変更の中で新たに加えられたデータ解析から、母子の相互作用と発達初期の言語能力の発達の相関等、当初想定されていなかった言語発達に関わる因子が発見されている。さらに、介入研究においても、オンラインによる保護者への介入支援効果が得られているほか、国内外の関係学会での論文、口頭発表、招待講演等による研究成果の発表も多く、順調に研究成果の発信が行われている。</p>		